事として総工費約二億六〇〇〇万円を投じて行われた。

さらに、昭和橋からの香宗川南岸の八〇メートルが昭和六十三年度に「ふるさと川」として改修整備されている。

第二節　道路・交通

国道五五号バイパスの開通

赤岡町には国道五五号が通る。

国道五五号は、高知市から東へ向かい室戸市を経由、北上して徳島県徳島市へ至る一般国道である。

赤岡町域における国道五五号は、平井山から南下、赤岡駅付近で大きく東にカーブを描き、電車軌道に沿って香我美町岸本へ抜ける。

かつては県道（県道高知―徳島線）であった。国道に昇格したのは昭和二十八（一九五三）年五月である。

この当時の道路法では国道は一級と二級に区分されており、同線は二級国道に指定され、県の管理下に置かれた。

一級国道に昇格したのは昭和三十七（一九六二）年五月のことで、翌年四月、管轄は県から建設省に移管された。一級国道及び二級国道の区分が廃され、現在の「一般国道」の呼称に統合されたのは昭和四十年のことである。

さて、当時の国道五五号のルートは、南町から本町を経て江見町へ抜ける赤岡町の「メインストリート」を通っていた。国道とはいえ、藩政時代からの道路をわずかに補修し、簡易舗装をしただけの道幅四・五メートルにすぎないカマボコ型道路であった。カマボコ型とは、道路の自然排水のために中央部が盛り上がった道路形状のことである。

昭和三十年代に入って始まった自動車の普及は、三十年代後半には交通量を増大させ、赤岡町域を走る国道五五号の交通渋滞は年々深刻の度を増していった。ラッシュ時には「メインストリート」を抜けるのに四〇分もかかる混雑を呈したという。さらに、交通量の増加は路面を損傷させ、市街地では損傷した路面が晴天時にはほこりを巻き上げ、雨天時には泥を跳ね飛ばした。メインストリートに軒を連ねる商店の店頭商品が受ける被害に商店主らは音を上げるようになった。

昭和三十六（一九六一）年五月、赤岡町では町当局と議会をはじめ、商工会、農業委員会など町ぐるみで対策委員会を設立し、町の中心街を迂回するバイパスの建設運動を開始した。

折しも翌三十七年五月に国道五五号は一級国道に昇格し、管轄が建設省に移管されることになったため、建設省は新たに土佐国道工事事務所を開設し、同線の整備に乗り出すことになり、その第一期工事として、赤岡町平井山から香我美町岸本間二・三キロメートル（最終的には二・五キロメートル）のバイパス建設計画を打ち出した。

昭和三十七（一九六二）年十二月に開始された測量が完了した翌年の三月二十三日、土佐国道工事事務所は用地買収に入るべく、赤岡町の用地関係者五〇人に正式な計画ルートを発表した。計画ルートは赤岡町南部を抜けるという現在供用されているバイパスのとおりであり、道幅一四メートルという広いものだった。

昭和40年代の江見町

当初はその年五月に着工、年内完工が目指されたが、用地買収に多少難航し、竣工は昭和四十一（一九六六）年十二月十九日にずれこんだ。このとき開通式が盛大に挙行されている。

舗装工事は同年七月から行われ、翌四十二（一九六七）年二月に完成した。総延長は二五一一メートル、総工費は二億八〇〇〇万円であった。

なお、国道五五号と旧国道を図１に示した。

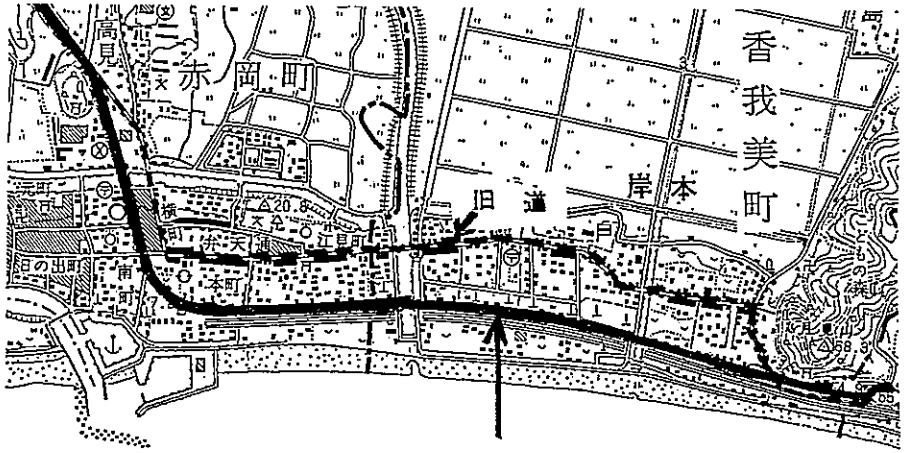

図１　国道55号と旧国道

表２　国道55号の交通量の変化

区分		昭和33年（1958年）	昭和43年（1968年）	平成17年（2005年）
歩行者		3,023人	114人	31人
自転車		1,844台	456台	49台
オートバイ		564	718	294
乗用自動車	乗用車	83	1,329	17,675
	乗合バス	48	74	136
	小計	131	1,403	17,811
貨物自動車	小型	414	878	5,103
	普通	104	394	2,776
	特殊	6	48	
	大型			2,412
	小計	524	1,320	10,291

注）昭和33年及び昭和43年の１日交通量は６月と10月の３日間の平均。
平成17年の交通量は平日の24時間当たり交通量の平均。
（国土交通省土佐国道工事事務所調べ）

図１は、国道五五号の交通量の変化を示したものである。建設省土佐国道工事事務所の調査では、赤岡町に最寄りの観測地点を岸本としていることから、その調査結果を掲げてある。高度経済成長時代のマイカーの急増、それ以降の物流の進展にともなう貨物車両の著しい伸びがわかる。

赤岡町メインストリート　バイパスの開通により、赤岡町のメインストリートである旧国道は幹線道路としての使命をバイパスに譲り、ヒューマンスケールの生活道路としての役割を担うことになった。

しかし、旧国道の交通渋滞が完全に解消されたわけではなかった。

幅員四・五メートルと狭いうえカマボコ型道路のために、大型車の行き違いに困難をきたした。道路の中央部が盛り上がっているため、大型車が通行する場合には車が大きく路側に傾き、沿道の家の軒先と接触するおそれもある。そのため、大型車は道路の中央寄りを通行するようになり、もともと狭い道路をさらに狭くしか利用できない状況にあった。加えて、道路沿いには商店が多いことから、商品の積み下ろしのための駐車車両も多く、交通渋滞の原因となった。

また、この道路は排水施設の不備という問題も抱えており、ボウフラ発生の温床ともなり、付近住民を悩ませていた。道路沿いの排水溝は底打ちもなく、傾斜がつけられていないために水が完全に排水しきれず、泥が道路から人家に流れ込むことなどもあった。

昭和四十三年度に県が行った舗装改良工事により、道路の全幅利用が可能になり、交通が緩和されるとともに、排水溝も底打ちが行われ、水はけも改善された。

県道　町内を走る県道には、県道香北―赤岡線（県道三〇号線）と県道春野―赤岡線（県道一四号線）の二路線がある。